

携帯で英語——携帯サイトを使った英語授業支援の実践報告

A Report on Using a Mobile Phone Website in EFL Classrooms

畑 麻衣子

According to Okada (2002), 98% of university students in Japan now own and use mobile phones. This being the case, how would students react to using mobile phones for studying English? This project hopes to explore the possibilities and realities of using cellular-phone websites in EFL classrooms. University students were given an opportunity to use either a mobile phone website or a traditional textbook to review vocabulary for weekly quizzes. The author then looked at (1) whether the students preferred using textbooks or the mobile phone website for reviewing vocabulary, and (2) any differences in the times and places of study and how long those who used the textbook and those who used the website studied. It turned out that only about 15% of the students chose to use the website to study.

序 論

大学生における携帯電話普及率は、現在98%（岡田、2002）にも上る。学生が愛してやまない携帯電話を授業支援に活用するにはどうすればよいのだろうか。この疑問を掘り下げたく携帯電話用ウェブサイト（以下携帯サイト）を作成し、学習支援に使用した経過を報告する。

この実践報告では、大学英語授業用に作成した携帯サイトによって「どこでも、いつでも」英語学習ができるオプションを与えられた際に①学生がどのように携帯サイトを使用して学習するか、②携帯サイトを使用した学生と教科書を使用した学生の、学習時間・学習場所に違いはあるのか、という2点を観察した。また、サイトの作成手順、学生からの反応、これからの課題なども紹介する。

本 論

授業方法

展開した全コースは関西大学総合情報学部で行った。3回生対象の必修英語「English 6」ではビジネス英語を学習する。同じ授業内容で2クラスを担当した。1回生を対象とした上級英語「English 2」（帰国子女や一定レベルの英語テストをパスした学生のみ）はリーディングとリスニングが中心。これも、同じ授業内容で2クラスを担当した。

毎週各クラスでは授業初めに小テストを行う。これは毎週欠かさず行われており、成績の一部となる。内容は前の週にカバーした教科書から、単語と意味の一致、会話文の穴埋めなどである。以下は参考までに、英語6のクラスで実施した小テストである。携帯サイトは、この小テストのための学習支援を主な目的として、作成した。

Fill in the blanks.

You have _____ the company headquarters of Hata Printing. We are now closed. Our regular _____ are weekdays from 9 am to 5 pm. Please _____ your name, telephone number. Thank you for calling.

Yes, I'm _____ about an order that my company, Delaney Designs, placed a week ago. I'd be very _____ if someone could contact me ASAP. My name is Barbara. My phone number is 555-5555. I look _____ to hearing from you. Thank you.

Choose the similar expressions/meaning.

- company headquarters _____
- ASAP _____
- Good day. _____

placing an order Good bye. the main office of a company common acronym that people use meaning "please do it soon" area code
--

携帯サイトの作成

携帯サイトを作成する際に、注意したい点が数点あった。

サイトを毎週更新するために、作成・更新が容易であるというのが第一点。次に、サイトはシンプルに、が第二点。最後に、サイトに広告が入らない、という点。

これらの点を踏まえて、まず携帯サイト作成用ソフトウェアの使用を検討したが、所有するPCが英語システムのため、日本製ソフトウェアは正しく作動しないと言われ、断念した。

次に携帯サイトを無料で作成できるオンライン・サービスを検討した。そのうちの数社に、教育目的で使用するので広告を外してほしい旨を連絡。「魔法のiらんど」(<http://www.tosp>).

co.jp/) が要請を受け入れ、協力してくださった。「魔法の i らんど」は携帯サイトが無料で作成できるオンラインサービス大手で、掲示板、アルバム、アンケート集計など30種ほどの機能が使用可能。また docomo、vodafone、au、PCの全てで作成・閲覧可能である。著者は自宅PCで作成、閲覧、更新した。

「魔法の i らんど」では、全てのページは「穴埋め」方式で作成される。図1は、表紙を作成・更新するときのページ。ここで作成した表紙が、携帯電話画面では図2のように表示される。

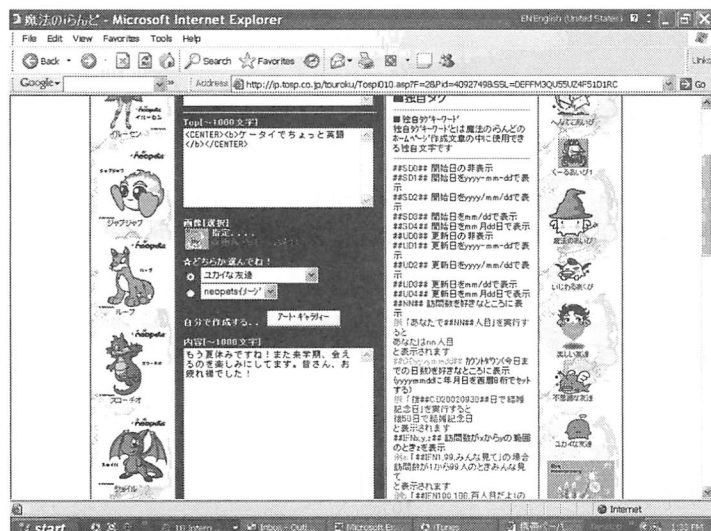


図1 魔法の i らんど 携帯サイト作成ページ

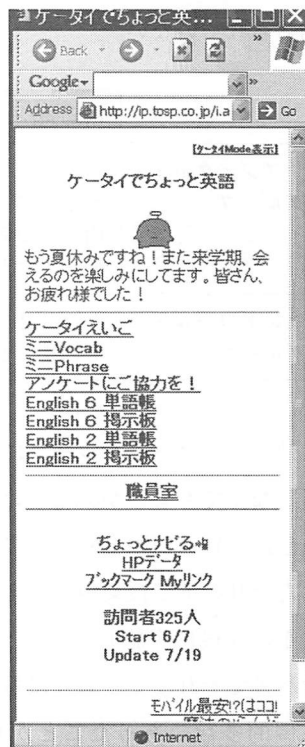


図2 作成した携帯サイト表紙

サイトには以下のコンテンツを作成し、アンケート以外のコンテンツは毎週更新した。

- ・表紙 (このページにアクセスし、そこから各クラス用の単語帳や掲示板へ向かう)
- ・ケータイ英語 (携帯電話特有の英語 (CUL&RでSee you laterなどを紹介))
- ・ミニVocab (日常会話で使われる口語の語句を紹介)
- ・ミニPhrase (日常会話で使われるフレーズを紹介)
- ・アンケート (「このサイトは役に立ちますか?」)
- ・「English 6」用単語帳 (新出語句などをまとめたもの)
- ・「English 6」用掲示板 (匿名でメッセージを載せたり読んだりできる)
- ・「English 2」用単語帳 (新出語句をまとめたもの)
- ・「English 2」用掲示板 (匿名でメッセージを載せたり読んだりできる)

- ・私書箱（学生が質問などを直接教員にメールできる機能。「職員室」と命名）

携帯サイト設置後の状況

① 携帯サイト使用率

サイトを学生に公表したのは学期半ばである。この際「English 6」は2クラスのうち1クラス、「English 2」は2クラスのうち1クラスにのみ、公表した（サブジェクト・グループとして）。通知されていない2クラスはコントロール・グループとして、携帯サイトについては知らされていない。

	English 6（3回生対象）	English 2（1回生対象）
サブジェクト・グループ	クラス1 サイトアドレスを通知した。学生は自由意志で教科書もしくは携帯サイトを使って学習	クラス3 サイトアドレスを通知した。学生は自由意志で教科書もしくは携帯サイトを使って学習
コントロール・グループ	クラス2 それまでどおりに教科書で学習	クラス4 それまでどおりに教科書で学習

サブジェクト・グループには「使用してもしなくてもよいが、こういうサイトを作成した」旨、口頭とサイトアドレスを記載したプリントで授業中に伝えた。

1週間後に実施したアンケートの結果、教科書でそれまでどおりに勉強した学生が圧倒的多数であったことが判明した（図3）。この使用率は、2週間に行ったアンケートでも1%の変化しか見られなかった（教科書86%、携帯サイト14%）。

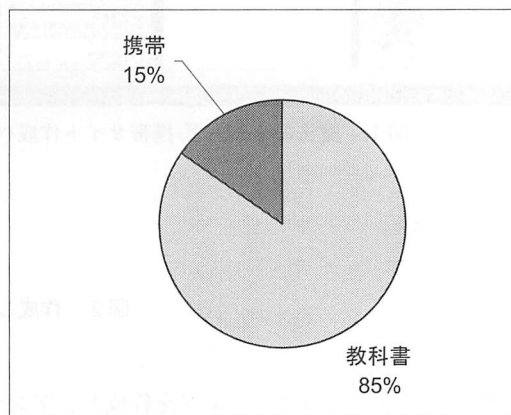


図3 サブジェクト・グループでの携帯サイトの使用率

② 携帯サイト使用・不使用の理由

教科書を使用した学生の意見（自由記述）では「サイトの存在を忘れていた（19%）」「今までの勉強のしかたに慣れている」「面倒だから」（各8%）などが上位を占めた。また「お金がかかる」「携帯電話でネットはしない」「教科書なら見やすい、書き込める」（各4%）などの意見も見られた。

携帯電話を使用した学生からは「テスト範囲を絞って勉強できる」（8%）、「携帯電話は楽しい」「いつでも見られる」「電車で見やすい」（各4%）という意見があった。

③ 学習時間

携帯サイトを使用した学生が52人のサブジェクトグループ中8人のみだったため、このアンケート結果から傾向などを分析することは難しくなっていました。あえて言えば19分以上という長時間学習したと答えた学生9人全員が教科書を使用していることくらいであろう。

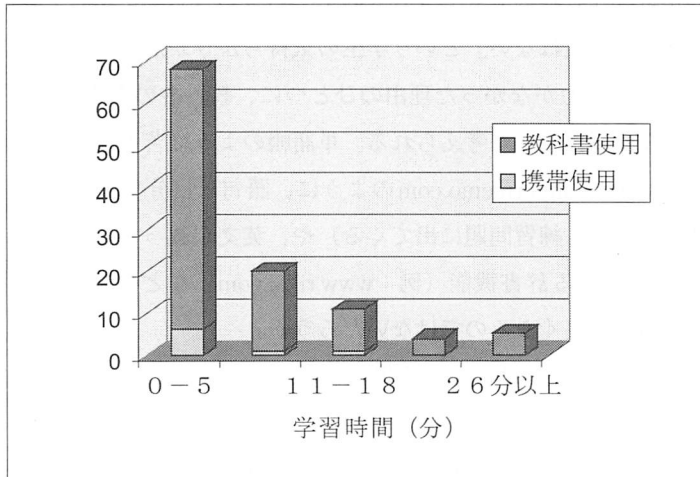


図4—学習時間

④ 学習場所

上記③学習時間と同様、携帯サイトを使用した、と答えた学生が少数だったため、何らかの結論に導くことは不可能である。強引を承知で言えば、学校や通学途中、その他（「喫茶店」）などの教科書を持っていないこともある場所での学習が多かった、とも解釈できるかもしれない。

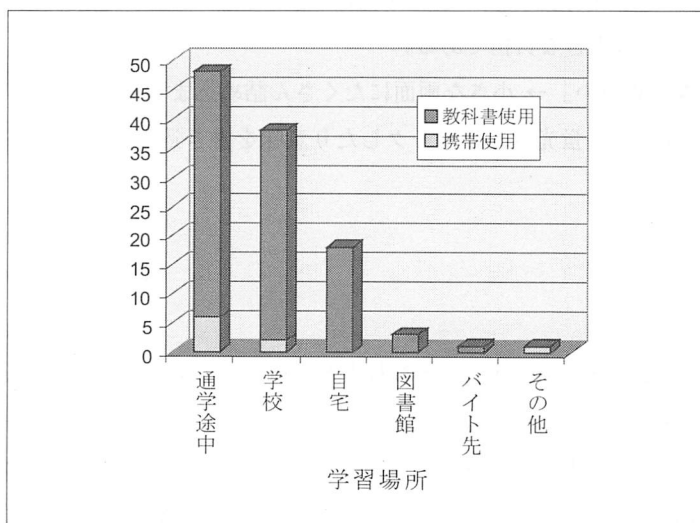


図5—学習場所

授業を終えて——学生の反応とこれからの課題

携帯サイトを使う、ということのみでは学生はのっけはこなかった、ということが、いちばんの驚きであった。以前担当したCALL授業では「コンピュータと英語学習」という組合せの目新しさに学生が飛びついた経験があったからだ。

学生のコメントからは「教科書でもできるものを、わざわざお金を払って、めんどうで見づらい携帯電話で勉強する必要はない」という学生の気持ちがかうかえる。

学生にとってサイトの魅力がなかった理由のひとつに、教科書の内容と、サイトの内容に、あまり大きな相違がなかったことが考えられる。単語帳のように苦手な語句だけを繰り返し学習できる機能（例えばwww.supermemo.comのように、語句を自分で入力、間違える頻度の高いものだけが何度も繰り返し練習問題に出てくる）や、英文が載っておりわからない語句にカーソルを当てると意味が出る辞書機能（例：www.rikai.com）などの学習支援機能があると、もっと携帯サイト使用率は高くなるのではないだろうか。

また、「どこでも使える」機能は、当初予想していたほど魅力的ではなかったようだ。これは小テストの勉強をする時間（たいていの場合がテスト当日だと推測される）には、教科書も持っている、ということが理由に考えられる。せいぜい5分程度の勉強は、学校に来るバスで教科書を見る、または教員が教室に到着するまでに見る、という程度だろう。右手に携帯電話、左手に教科書、という状況では、教科書が圧倒的勝利を収めたのだ。

携帯電話を使用したこれからの授業支援には次のような課題が考えられる。学生の声を引用しながら紹介する。

「機能が少ない」→上でも触れたように、これからの機能向上に期待したい。

「お金がかかる」→サイトを使用した学生は「通信料はいくらかかりましたか？」の質問に「200円（3人）・100円（3人）・50円（1人）」と答えている。仕送りやバイトで暮らしている学生にとっては大きな負担である。

「見にくい・書き込めない」→小さな画面にたくさん詰め込まざるを得ないので、使いにくい。また教科書と違って、蛍光ペンでマークしたり意味を書き込むのに慣れている学生には、歓迎されない。

結 論

一言でまとめてしまえば、携帯サイトと教科書と両方で同じものを提供する意味は現時点ではない、のだ。「有料・見にくい・面倒」というディスアドバンテージを超えるだけの意義を、今回作成したサイトには学生は見出さなかった。これからこのようなプロジェクトを進めていく上で、忘れてはいけないのはこの点ではないだろうか。紙でできるものを、ただ「テクノロジーを使えるから」というだけで携帯電話やインターネットに振り分けてしまう、というので

は、いけないのだ、と自省をこめて、言いたい。

また忘れてはいけないのが、携帯電話を持たないマイノリティの学生達の存在である。このプロジェクトを進めていく上で意見を交換した学生の1人は「それやったら、携帯電話でテストとかすればいいんちゃう？」と提案してくれた。しかしそれでは、携帯電話を持っていない、また携帯電話に慣れていない学生を不利にし、デジタルディバイドを広げてしまう。

こういった点に気をつけて、上手にテクノロジーを利用し、学生の学習を助ける挑戦を続けて行きたい。

参考文献

- Rudick, Todd D. (2005) Todd David Rudick's Rikai. Retrieved September 20, 2005, from <http://www.rikai.com/perl/HomePage.pl?Language=Ja>
- SuperMemo World. (2005) Super Memory: Forget about forgetting. Retrieved September 20, 2005, from <http://supermemo.com/index.htm>
- 岡田朋之 (2002) 「情報教育における携帯電話の利用について」『IT Education フォーラム 情報教育』14号
- 株式会社 ティー・オー・エス メディアカンパニー (2005) 「魔法の i らんど」<http://www.tosp.co.jp/>
参照 2005年9月20日